

■ パワービルド工法



専用金物と構造用集成材を使用した
高精度で高い耐震性を持つ木造軸組み工法。

ポイント② ボルトナットを使用せず、高強度な工法

ボルトナットを使用しない金物工法のため、
数十年後、ナットのゆるみの心配がゼロです。

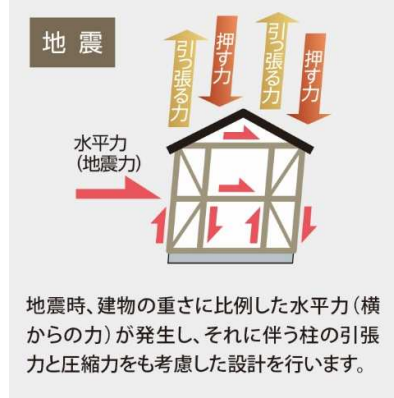
一般的な在来工法は土台や柱、梁などを
接合するために仕口やほぞを加工するため
断面欠損があり、接合部の強度に心配がありました。



ポイント① 自然災害に対応するために全棟構造計算を実施

許容応力度計算+立体解析

専用CADでは、地震、台風、豪雪などの災害の際、
建物にどのような力が加わるかを計算し、その力に
建物が耐えられるか詳細な検証をしています。
建てられる地域や間取りによって、一棟一棟違
いますので、それぞれを考慮した最適な部材、最適
なバランスで構造設計しています。



ポイント③ 巨大地震に強いことを検証

阪神淡路大震災を遥かに超える、巨大地震波にも耐えました。



財団法人建材試験センターが主催する「木造構造建築物の振動研究会」において、工学院大学建築学科・宮澤健二教授の指導のもと、パワービルド工法の実大振動実験が行われました。
(平成18年5月26日、独立行政法人土木研究所にて)

阪神・淡路大震災の1.25倍の実大振動実験後の検証においても、接合金物の変形・損傷は見られず、その高い強度と安全性が実際に証明されました。



パワービルド工法・接合金物の特徴

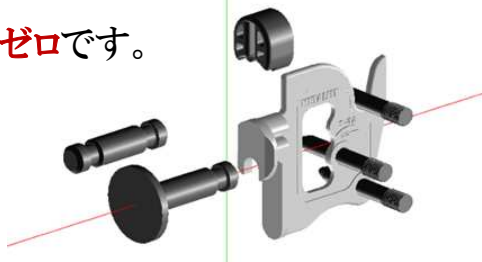
優れた特徴① 強固な接合強度、長く維持する接合金物

- 厚みは重量鉄骨級6mm、ロストワックス製法による**一体成型の炭素鋼** 鋳鋼(たんそこうちゅうこう)製で住宅の**精度・強度・耐久性**を向上しています。
- 防錆は、**世界の自動車メーカーが使用するジオメット®**を採用しており、一般的な住宅に使用される亜鉛メッキより遥かに高性能です。

※炭素鋼鋳鋼とは鉄(鋳鉄)に比べて強さ、粘りが大きく、激しい力の加わる機械構造物の部品として用いられています。
 ※一般的な金物工法は3mm程度です。

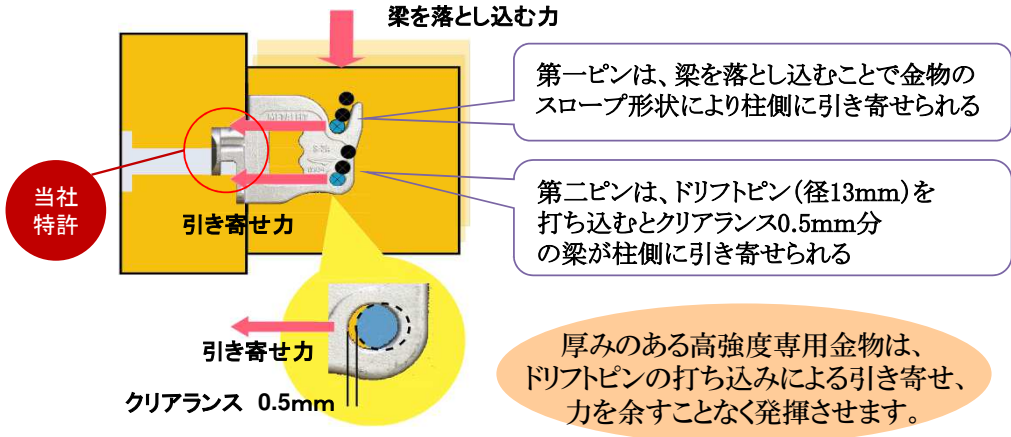
優れた特徴② ボルトナットを使用せず、高強度

ボルトナットを使用しないため、数十年後のナットのゆるみの心配がゼロです。



JIS G5101規格に基づく炭素鋼鋳鋼品です

優れた特徴③ 引き寄せ力を余さず発揮



優れた特徴④ 木材の利点を最大限活かす強い接合部

